

藤吉好則理学研究科教授が第 10 回慶應医学賞を受賞

理学研究科 物理学専攻 水崎隆雄

このたび、藤吉好則理学研究科教授が第 10 回慶應医学賞を受賞され、慶應義塾大学医学部において 12 月 6 日（火）に授賞式が行われました。慶應医学賞は、世界の医学・生命科学の領域において医学を中心とした諸科学の発展に寄与する顕著、かつ創造的な業績をあげた研究者を顕彰するため 1996 年に創設されました。毎年、国外・国内の研究者、各 1 名に授与されてきましたが、昨年度からは国内外合わせて 1 名が選ばれています。世界的に重要な賞であり、この賞の受賞者から、狂牛病のプリオンを発見した Stanley B. Prusiner 博士（1996 年慶應医学賞受賞）とピロリ菌に対する診断、治療法を確立した Barry Marshall 博士（2002 年慶應医学賞受賞）の 2 人のノーベル医学生理学賞受賞者がでています。

藤吉好則教授は、極低温電子顕微鏡を開発し、電子線損傷を受けやすい蛋白質の構造を高分解能で解析できるようにしました。具体的には、水チャンネルやアセチルコリン受容体、バクテリオロドプシン、さらには各種のイオンチャンネルなどの膜蛋白質の構造を解析しましたが、これらはいずれも医学や生物学的に重要で、且つ技術的に高いハードルを持つものばかりであります。今回の慶應医学賞受賞は、藤吉教授が長年かけて独創的な研究を進められた結果が高く評価されたものと思われます。水チャンネルの構造解析は、2003 年に Peter Agre 博士がノーベル化学賞を受賞する上で重要な貢献をしたとされており、世界的にも高い評価を受けておりました。

特に、藤吉教授の研究の特徴となっている極低温電子顕微鏡は低温センターとも関係の深いものであり、今後の研究のさらなる発展がセンターの発展にも繋がる事を期待しています。その意味でも藤吉教授の慶應医学賞受賞を喜ぶたいと思ひます。